

令和2年度 小松島市中小企業・小規模企業振興会議 議事要旨

開催日時 令和2年10月27日（火）午後4時から午後5時30分まで

開催場所 市役所4階大会議室（小松島市横須町1-1）

議事要旨

議題① 令和元年度（平成31年度）小松島市企業振興施策実績報告について

令和元年度（平成31年度）に実施した本市企業振興施策や取り組み結果について報告。

議題② 小松島市令和2年度予算（概要）について

令和元年度から引き続き実施している本市施策の取り組み状況や、令和2年度の新規事業、及び新型コロナウイルス感染症対応支援策について報告。

委員意見：

寄港中止となった豪華客船入港歓迎事業に係る予算は、他の施策に回されるという認識で良いのか。

市回答：

ご指摘の豪華客船入港歓迎事業並びに港まつりに係る予算については、減額補正するとともに、新型コロナウイルス感染症対応支援策に充てることとしている。

委員意見：

令和2年度予算に新型コロナウイルス感染症対応支援策とあるが、今後の事業に係る予算要望等のスケジュール、窓口等を教えていただきたい。

市回答：

現在、新年度予算の編成作業中であり、本会でいただいたご意見を、新年度予算に反映してまいりたい。

委員意見：

令和2年度の観光振興に係る予算が2,761万3千円とのことだが、具体的な使途は決まっているのか。今後の要望、例えばコロナの第3波が来た際に対応できる等の余地はあるのか。国からの交付金が3億程度あるとのこと、その使途について商工会議所から提案しようとの考えもあったが、既に使途が決まっていた。今回もそのような対応となる可能性はあるのか。

市回答：

令和2年度当初予算分であることから、使途は概ね決まっている。国の追加補正予算の状況も鑑み、内容に応じて来年度予算で対応するのか、補正予算で対応するのかを検討したい。今回の場合、市としては小中学校の安全対策にも重点的に予算配分したこともある。

委員意見：

一定のガイドラインに沿った感染症対策を行う場合に、その認定制度や、それに伴う助成といった予算対応は可能なのか。

市回答：

検討したい。

議題③ 企業向けアンケートの集計結果について

令和元年度（平成31年度）に実施した企業向けアンケートの集計結果について報告。

委員意見：

全事業所の訪問調査の実施を要望し続けているが、コスト的にも難しいと伺っている。この度のアンケート調査の回収率は20%程度とのことだが、統計的には参考となり得るのか。回答では、約半数が後継者いないことから廃業の可能性があるとのことだが。

委員意見：

従来のアンケート調査では回収率が10%を切ることもあり、20%というのはまずまずの回収率ではないか。回答数は300件程度であり、データの偏りも見られないことから、分析結果としては割と信頼性が高いと思われる。

委員意見：

回収率20%は優秀とのことだが、回答時期がコロナ前ということで、本当に現状を反映しているのかということは共通認識であると思う。そういう意味でも、この振興会議を半年に1回程度は開催していただきたい。実績報告や予算編成にあたっては、審議時間が少なくなると思う。

市回答：

今回のアンケート調査後に、コロナ禍が発生したことから、当該集計結果が現状を正確に反映しているとは考えていない。現在、企業訪問を行っており、ご意見をいただく中でも基本的な方向は間違っていないと感じており、引き続き企業訪問を実施してまいりたい。

本振興会議の年2回開催とのご意見については、感染症の拡大状況次第でもあることから、確約しにくいところではあるが、今年度においては、第2回の開催を検討したい。

委員意見：

市内事業所の現状としては、経営課題が絞り込めていないと感じる。アンケートの集計結果を見ても、恐らく規模の大きな会社は、ソフトもきちんと分析ができています。それは外部環境と内部の資源、強いところと外のチャンスとうまく融合させる立ち位置ができています。その基本となっている経営理念がしっかりしているところは人材も来やすい、この会社はブレがない、この会社の理念にひかれる、そういうところがあるんじゃないかと感じています。

議題④ 意見交換

議題①、②を踏まえて、参加委員各位の所属組織における現状、課題等について意見交換を行った。以下はその抜粋。

委員意見：

前年度比較での小松島管内の求人が減ってきている。4月から9月の半期で見ると、大体20%弱減っており、やはりコロナが要因と思われる。

求職者自体も減っており、三密を避ける意味からも案内が難しい状況が続いている。
今後、求人等がどのように回復していくかを重視していく必要があると思っている。

委員意見：

他の市町村と比べてセーフティネット保証制度の認定スピードが速かったと思っている。
総論の話としての前提だが、国の助成金や保証協会付の融資を活用されることで、足下資金繰りに窮しておられるという企業は、他市と比べて少ないと感じる。

委員意見：

新型コロナウイルスの発生に関わらず、基本に忠実にということをはかりに徹底するかということ、行政機関も含めてやっていただきたいと思う。

委員意見：

産直事業をしているが、一部の事業がコロナの影響で、この3月5日から休業を余儀なくされたが、逆に在宅が多いということから、昨年度より若干売上増となっている。産直以外の産物では、花の関係が特にかなり落ち込んでおり、その対策を現在模索中である。

委員意見：

コロナの影響で診療控えというのが如実に起こっており、医療機関においても、経験のないような減益減収が予想され、様々な助成金を活用しているところである。診療控えによる重篤化が見られる現状では、定期的な受診というのはやはり必要であると考えている。

委員意見：

工業団地内でも大手、中小にかかわらず、経営に温度差があり、大手でも助成金を活用して休業していたところもあれば、中小でも元気なところもある。

雇用に関しては、ハローワークの合同就職面接会等、市役所からの支援もいただき感謝している。去年までは求人に対する応募がなかったが、作業員の方はコロナが蔓延してきたから、反対に潤沢に市場に出てきたように感じる。ただ、技術者に関しては官民を挙げて争奪戦になっており、特に中小は厳しい状況が続いていることを危惧している。

— 了 —